

3学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

3学年通信3号 通算183号

2017. 4. 7 (金) 発行

飛躍の年に！ 渡部弘美

興譲館の校歌は、前任校時代のほろ苦い思い出の曲でした。それは興譲館との試合に負けて何度も聞いてきた曲だったからです。選手も勝ちたくて試合をします。我々も勝ってほしいの一心で応援してきましたが、勝ちたくて勝ちたくて勝てないので、ほろ苦い思い出になった訳です。その生徒たちが毎日コツコツと練習する姿や学校に力を貸してくれた姿を見てきましたので、やはり応援にも熱が入ります。でも、なかなか勝つことができませんでした。



興譲館に赴任し2年が経ちました。今は校歌の前奏から身が引きまします。それは、この2年の毎日に関係するからでしょう。入学後のすぐに「興譲の精神」を正門で待つ主任の前で暗誦する課題があったり、フィールドワークで本物の「大巔の吾妻」に立ち眺望に感動したり、「漢文音読」、我妻栄先生の講演集「母校愛の熱弁」に触れたことと等々と担任団の先生方とみんなとの時間がとても充実していて有意義だったからです。

1年生では授業があり、新しい挑戦を経て授業の醍醐味を何度も味わうことが出来ました。今でも強く思いますが、家庭科室でのみんなをもっと紹介したかったです。そして、2年となりみんなとの活動は掃除！！そこで、今年は日本一きれいなトイレを目指しました。3組のみんなと達成しました。だれが決めたかといえば私です。古い校舎の、古いトイレの掃除は大変です。達成感がなかなか得にくいのでできればやりたくないもの。しかし、3組のみんなはさらっと挑んでおりました。掃く・磨く・雑巾がけを毎日やりました。きれいなトイレをキープしてくれました。きっと、トイレの神様♪もご褒美をくれることでしょう。聞けば、階段掃除で絃二郎先生といっしょにがっちり雑巾がけしたのも3組。そんな生徒がいることは素敵なことです。

そして、みんなは3年生になりました。今年もよろしく！
といたいところですが、別の業務を担当することになりました。

本当に残念です。今年勝負の年です。

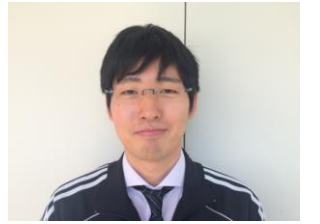
みんなの努力が実りますように。

きっと Dreams Come True !!

*私は整理整頓が苦手です(3組のOYさんと同じです)。職員室掃除の2組諸君は私の机を見てよくわかっていることでしょうか？ そんな私ですから掃除はもっと苦手です。渡部先生は「日本一きれいなトイレ」を目指し3組諸君と共に達成してくれました。そのトイレは「思っきり深呼吸！」してしまうほどの清潔さと「品」を備えていました。そう、それは渡部先生が品のある方だからです。3年生諸君に、将来「先生のような品のある人」になって欲しいと思います。品のある女性は綺麗です。品のある男性は素敵です。品を身につける一番の近道はトイレ掃除ですよ、って渡部先生が教えてくれた。本当にありがとうございました。

こんにちは中村です。

この文章でこのたび、皆さんと一緒に3学年へと上がることができなかったことを報告します。それは私が結婚したからではありません。実はこの度、探究科設置に向けた準備を担当する仕事を仰せつかり、そのため学年を外れることとなりました。(卒業文集に私の文章が載らないことも最も悔しいことの一つです。)生徒の皆さんにこの役割について簡単に説明すれば、探究型学習やアクティブ・ラーニングと呼ばれる、今教育現場で注目を集め、これからの教育の在り方として期待されている教育法を研究・実践・普及することが使命の役職であるという説明になると思います。この新しい教育は、AIが人間の職業を奪うような時代も、人間らしさを武器にたくましく生きていく人材を育てるために必要なことだと私も理解しています。この仕事自体がある種「山形県の教育にとっての探究型学習」と言えるでしょう。答えのないもの(未知の課題)に対して自分なりの答え(解決策)を見出して提示するというのは非常に難しいことです。しかし、同様のことを皆さんに求めるだけではなく私も実践していると思います。少し話は変わりますが、本校の某理科の先生とこのことについて話をした際、「守りに入って無難な仕事したら意味がないから、思い切って自分の信じることをやってくれ。挑戦しないのは、失敗もしないということだから成功もない。意味がない。」と励ましの言葉を頂きました。私は、その言葉に非常に勇気づけられました。当たり障りのないように保守的な実践をしても、進歩がないというのは当然のことです。他高校の担当者とも同じ大きな目標達成のため様々なアプローチで挑戦していくことになると思います。そのほうが似通った実践や成果にならず、得られるものは大きいと信じられるようになりました。挑戦すべきところは挑戦し、丁寧に取り組むべきところは丁寧に取り組んでいきたいと思います。そして、これから興譲館で勤務する間ずっと苦勞を掛けるだろう妻に感謝したいと思います。私が仕事のできる人間であれば、同居して1時間以上かけて山形周辺から通勤しても問題はないと思うのですが、今は自分にできることをやるだけで精一杯で、通勤に2時間もかけるならその分仕事をしたいと思うのです。それは、完全に私のわがままです。それに付き合ってくれるというのですから、素晴らしい女性だと思います。



それでは、話は変わりますが、私の結婚について皆さんの前で報告をしていなかったのも、この場を借りてすこしご報告させていただければと思います。今年の3月3日に私と妻は山形市役所での入籍のため婚姻届けを提出しました。ひな祭りだからではなく、9年前の3月3日は私たちの高校卒業の日で、別れを目の前にして初めてお互いの気持ちを伝えあった日で、二人の記念日だったからです。高校卒業後、私たちは別々の大学に進学したのですが、たまたま隣県同士で遠距離恋愛ならぬ中距離恋愛となりました。それを彼女は不安に思ってなかなか交際はスタートしませんでした。しかし、私が「大丈夫！関係ない！」と言って強く押したとききっかけに数週間後に交際はスタートしました。(なぜか、私はこの時珍しく自分の意見を強く通しました。)私は4年間、電車を使って1時間半かかる道のりを一か月に1、2回通いました。デートや旅行に行ったりするお金や電車賃を稼ぐのにアルバイトを頑張っていたのも今となればいい思い出です。大学卒業後も、米沢工業・楯岡・山形東の常勤講師の3年間、そして教諭としての興譲館1年目というように社会人になってからの4年も一緒に過ごしました。これで丸8年お付き合いしたことになります。そして9年目に突入する日に入籍をしたのです。8年も付き合っているといろいろなこともありましたが、「女性として愛することができる人は、生涯、彼女だけだ。」と私は誓う必要もなく確信しています。

このように説明はしてきましたが、実は性格や思考が正反対の二人です。私の妻は、英語が苦手です。いろんな場所やイベントに出かけるのが好きです。気が強く、自己主張もしっかりします。結構見栄っ張り、プライドと理想は高いです。家事をきちんとこなしますが、意外と仕事はおおざっぱです。声は、レストランなどでは会話が筒抜けになりそうぐらい大きくて困ります。

でも、笑顔はとっても素敵です。(血液型はA型で、4月生まれのおうし座です。)

私は、英語教員ですがとってもインドア派です。気は弱く、自分の意見はあまりごり押ししません。見栄は張らないし、プライドと理想は低いです。(仕事以外に関して。)家事については独身男性で帰りが遅いところから察していただいて…私の仕事に関してはどうでもいいところにこだわるくらい細かいです。私の声は、5分以上しゃべると生徒たちを気持ちいい眠りへといざなう優しい声ですが、笑顔は微妙です。(血液型はAB型で、9月生まれのおとめ座です。)

ほらね。正反対でしょう?…誰ですか!私のまじめな記事を読んで笑っている人は!

自分の結婚を通して考えたことをどこかで皆さんに少し伝えたいと思っていたのですが、学年を外れその機会がなくなってしまうのでここで伝えたいと思います。

なぜ恋愛について学校では教えないのかとまじめに思うことがあります。「愛」をテーマとする小説や文章を国語や英語ではたまに取り扱いますが、なかなか恋愛観を生徒に伝えることはありません。そもそも正しい愛というものは、だれがどう判断するのでしょうか。きっと、一生夫婦として連れ立って最期の別れの瞬間に理解するものだと思います。ある意味、結婚は「コミュニケーションの究極の探究型学習」であり、それに至るまでの過程やその後の生活も同様なのだと思います。もちろん結婚しないことが正解だと考える人もいるでしょう。そのように考えれば、皆さんの人生の選択一つ一つが「果てしない探究型学習」であるといえることに皆さんは気づいているでしょう。(やはり探究型学習で培える力は「生きる力」なのです。)それにしても愛について、多くを教える(ことができ)ないことは学校教育の課題の一つであると思います。もちろん「愛の何たるか」を教えることはできないものだと思います。それは、答えのないものであり、人類の永遠のテーマであるからです。しかし、多くの教員が愛について様々な考え方を伝えることで生徒は恋愛(あるいは生き方)の多くのヒントを得ることができると思います。

(もしかすると私が知らないだけで各教科では愛について伝えているかもしれません。某主任の「帰納法による永遠の愛の証明」という研究授業もあったそうですから。)数少ない恋愛のテーマの単元で、新三年生には二年三学期で3つの私の考えを伝えました。

- ①押して折れるなら押しなさい。しかし、引き際は肝心。
- ②恋はタイミングを逃せば、実るものも実らない。
- ③結婚一週間前の女性を連れ出し〇〇をする男は最低…ではなく3つ目はなんだったか…(私自身忘れてしまいました。きっとそこまで重要ではなかったように思います。)
- こままでのものはかなり表面的なものでしかありませんでしたが、このようなことよりもずっと参考にしてほしいことがありますので、少し書き連ねたいと思います。
- ④付き合っていて、お互いが成長しない関係性なら別れたほうがいい。
- ⑤感謝と謝罪はしっかりと口にして日ごろから伝えたほうがいい。
- ⑥悪いところばかりに目を向けずに、良いところに目を向けたほうがいい。
- ⑦無理をしてでも、少しでも長く一緒にいれるように努力したほうがいい。
- ⑧考えていることが100あったとして100を伝える必要はないが、98は伝えたほうがいい。(この2とは何か!?!…人生という探究型学習の中で見つけてください。)
- ⑨互いに互いに気を遣ったり遠慮をしたりするようなことはせず、その一方で相手を思いやる気持ちは忙しくても常に持ち続けられるよう努力したほうがいい。
- ⑩人格に裏表があったり、特段の理由もないのに感情の波が激しかったりする異性には気をつけたほうがいい。(上記の私の考えに合致しない場合が多いと思われるからです。どうしても生涯のパートナーにしたいならその方法を探究学習して下さい。そして、レポートにまとめ私に提出!)明確な答えのない恋愛や結婚ですから、「こうしなさい。」などと断言できることは少ないです。

そして次に述べることは、賛否両論だと思いますが敢えてここに書きたいと思います。

「自分が初めて付き合う人とは結婚を慎重に考えなさい。」というのが持論なのですが、高校生や大学生の段階で恋人がいたほうが良いと私は考えます。その後の時期でも良いのですが、適切な時期はそのころだと思います。そして、その時期に「異性を見る目」を育てるのです。失恋する必要はありませんが、「どういう人かわかっていたつもりだけど、相手を見極めることができなかった。」と恋愛や人間関係において失敗することが、長い目で見て恋愛の成功につながると思います。あらゆる点で、失敗は成功の元です。初めて交際する人と結婚することは、ある程度リスクがあります。答えが明確でないものに初めて取り組む際に、根拠や経験がないのに「これが完璧な回答である。」と自信をもって答えられる人はどれだけいるのでしょうか。もちろんそのように思えることは素晴らしいことですが、それに対して明確な理由付けがなければ、後から「もしかしたらもっといい人と結婚していたかも…」なんていう後悔をするかもしれません。(互いにそのように後悔してしまっている中高年夫婦は、お互いの悪い点を指摘し合う傾向があります。家庭がギスギスしてしまいそうですね。)恋愛での失敗があれば、「少なくともあの時の恋愛の失敗よりは、ずっといい恋愛ができた。」と、後から振り返って自分の判断の妥当性を再認識できますし、納得できます。これは、自分の恋愛経験だけではなく、様々な夫婦の姿を見て私が経験的に感じたことです。私だけではなく、様々な人から意見を聞いて「愛(人生)の探究型学習」を頑張ってください。(えらそうに長々書きましたが、あくまで一個人の意見です。)



そして、あなたたちがこれからできる「愛(異性への愛に限らない愛)の探究型学習」の基礎は、「人と多くのかかわりを持つこと」「人と深くかかわること」「相手を尊敬し、意見を尊重すること」です。それは、挨拶をするといった本当に基本的な習慣に始まり、感謝や謝罪を素直にすることや人の陰口を言わないことなど簡単に思えて実は難しいことまで例を挙げれば様々あります。しかし基本的には、学則をはじめとする『興譲の精神』にあると思います。そして、『興譲の精神』自体も、あくまで自分の人生観や生き方の骨組みであって全体像ではありません。興譲館で学べるのもあとわずかです。(3年生はあっという間に過ぎます。)改めて生き方について考えてみて、豊かな人生を送れるよう今できることをしっかり実践していきましょう。いつも応援しています!(…と言っても私はまだ3年生の授業を持ちます。)



<結びに>

*最初にコージロー先生から送られてきた原稿は約7000字でした。すごいね!と言うと「これでも半分以上削除したんです!」とだけ書いてたんですよ。その後、気に入らない所があったようで2000字削除して約5000字となったのがこれ。学年通信180号の歴史において最長不倒だと思います。実はテキストだけだったのだけれど「2人の写真載せようZ!」とお願いして送ってくれたのが表の写真。本当は好きすぎて誰にも見せたく無いらしい?写真データをズームして凝視したのだけれど「樺坂46で〜す」と言われたら信じてしまうほど美しく素敵な品のある女性です。本文では、結婚に至るまで、恋愛について、今の先生の決断、中核教員として山形県を背負う使命を熱く語ってくれました。生徒諸君にとっては「爽やかで気持ちいい兄貴」のような存在だったのではないのでしょうか。私は皆さんに「誠実で熱くて愛ある人」になって欲しいと願います。ときにTVや新聞では「最近の若い者は…」何て否定的なことを聞くのだけれど、いやいやそんなことは無い。「米興に中村紘二郎という男がいて、日本一の高校を目指し実現した」という日がきっと来ると確信します。本学年から離れることは本当に残念なのですが、今生の別れでは無い、いつでも会えるアイドルAKB48!」なのだから?コウジロー先生が困る位に質問行こうぜ。きっと喜ぶハズだZ!